

障害者支援施設 障害者福祉センター厚和寮

1 基本方針

障がいのある方に対し、快適な施設生活が送れるよう介護サービス提供の充実を図ると共に、地域や家庭での新たな生活に向けて安心して移行できるよう支援を行う。

また、在宅の障がい者に対しては安心安全な日中活動の場所を提供し、ケアマネジメントの手法を活用して社会リハビリテーションを中心とした各種サービスを提供し、地域生活に必要な社会生活力を高めると共に、地域資源との連携の中で自立と社会活動への参加を目指した支援を行う。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別								
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡			
				GH	アパート等								
生活介護	60	68	4	0	0	0	0	0	0	0	13,392	83.0%	72
施設入所支援	40	42	4	4	0	0	0	3	1	0	14,858	101.8%	42
元	生活介護	60	72	1	5	0	0	0	3	2	13,989	87.3%	68
転	施設入所支援	40	42	4	4	0	0	0	2	2	14,787	101.0%	42

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	2	22	12	9	5	50
女性	0	0	1	7	5	9	0	22
計	0	0	3	29	17	18	5	72

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	1	9	7	6	5	28
女性	0	0	0	5	3	6	0	14
計	0	0	1	14	10	12	5	42

3 事業の実施状況

（1）安定した経営

ア 入所定員40名に対し通年を通してほぼ、上限の42名の受け入れを行った。

通所利用者の確保に努め就労系事業所から機能維持目的の利用者を新規に受け入れる等、目標稼働率の達成に努めた。

短期利用については、地域ニーズに応え、社会的役割を果たすべく、虐待等の緊急ショート依頼には全て応じた。

- ・稼働率：生活介護83%（目標90%）、施設入所支援102%（目標102%）、短期入所32%（55%）

今年度については、生活介護利用者の重度・高齢化に伴い介護施設への移管を推進した。

また、コロナ禍により、通所事業の自粛期間を設けたことや利用者自身の利用自粛等あり稼働率が減少した。

イ 建て替えに向け友愛寮と「合築・別運営方式」の方向性を出し、他県にある先進施設を視察予定としていたがコロナ禍により見合わせる事となり、具体的な検討に至っていない

- (2) ひとり一人の自己実現を目指したサービスの提供
 ア カンファレンスを重視し、本人ニーズの引き出した、地域移行意識の醸成に努めた。
 イ 家族・利用者・職員アンケートを「サービス向上の宝」と捉え、真摯に向き合った。
 ウ 互いの専門性を尊重し、チームケアを行った。
- (3) 地域共生の土壌作りに努める
 ア コロナ禍により実習やボランティアの受け入れは最小限とした。
 イ 昨年度行った地区公民館事業による手話教室は、コロナ禍により実施されなかった。
 ウ 情報が少ない中でも、緊急利用案件には積極的に受け入れを行った。
- (4) 働きやすい職場作り
 ア 勤怠管理システムを導入すると共に、職員同士の意識高揚でサービス残業禁止を徹底した。
 直接処遇職員の1名減配置を前向きに捉え、事業の見直しや優先順位の設定を行った。
 イ 月初めに職員朝礼で「厚和寮倫理綱領」を唱和し、意識の徹底を図った。
 ウ コロナ禍により、研修自体が少なく多くの機会はとれなかった。
 エ コロナ禍により、法人内職員派遣研修は実施出来なかった。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取湖陵高校(現場実習)	4-12月	9人	121人
鳥取社会福祉専門学校	11-12月	4人	20人
計		13人	141人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取湖陵高校、園芸セラピー

[延べ86人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 6名及び空床型

(2) 利用実績

(人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	22	706	27	1,207